

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 20-105

試料・情報の利用目的及び利用方法

・研究課題名：原発性乳癌手術症例における局所および全身療法選択の検証および安全性の検討

・目的：当院の乳がん患者における外科療法を主とする局所療法および各種全身療法の選択の実態および臨床病理学的因子が治療成績に与える影響を明らかにし、実臨床における適切な治療選択につなげることを目的とする。

- ・研究期間：本研究の承認日～2025年9月30日
- ・研究対象：2007年4月1日～2024年12月31日

利用又は提供する試料・情報の項目

診療記録より、以下情報を調査する。

乳房に対する術式・腋窩リンパ節に対する術式・乳房再建術の術式毎に、手術時間、出血量、術中・後合併症の手術因子を検討し、初発年齢、閉経状況、PS (performance status)、既往症、合併症、家族歴、病理学的因子 (TNM 分類、組織型、腫瘍径、リンパ節転移状況 (節外浸潤・微小転移の有無)・個数組織学的異型度、脈管侵襲、および ER, PgR, HER2, Ki67, PD-L1 によるサブタイプ分類)、放射線治療の有無、術後抗腫瘍薬投与の有無・種類・順序、併用薬の有無が、腫瘍学的転帰に与える影響を単変量解析・多変量解析・生存曲線による解析を用いて評価する。また、転移再発治療時においても、転移部位の生検によるサブタイプの確認、がんゲノムパネル検査目的や局所コントロール目的でおこなわれた外科療法の意義についても同様の検討を行う。

利用する者の範囲

：当院で研究責任者は、乳腺腫瘍科の松浦一生です。

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

：乳腺腫瘍科の大崎昭彦です。